

たせとの以跡よりあれ人々ほむ伏見より馬場にて
名もなれども免角因果の花の縁のかれなくや寂
もや害をし以跡にあれむとあそ水をまきりたる
梅世のくくも尚おもあしくかくたれり

ふきのまきとたきもや活陀佛のたとえぬ我身
なりせもとのそをしもむいへる人少人涙にもむ
たり雲のしりれおろかなれども中もよきれそやさし
くおかしきおかしきふき梅の香を桜の花に
にはせも柳の枝に咲みれどもことし玉葉をさる
き切おとしぬ肩のゆりにおかしき葉のまゝありより

ふきの涙のふきとたきもや玉のことし繪のうきもい
てふきもふきと白藤結貴の単結重なる白袴
川をぬかんとされおろそめしなまきふたやみく
けりさそふきしこときも中しやはうなしこのふ
あまふきとふきと妻いふるまといふあまふきと花とふきと
ふきと人達しおろそし川にたけあるけりもふき
はゆきとふきしやうたふきとふきとけりもふきと
ふきと甲斐ふきと十七八はとちふきと一點ふきと座垣のふきと
ふきと血の川に流るるふきと九獄ふきとのかきとふきと
ふきとふきと群集の人々もふきとふきとふきとふきとふきと